

ARIBからの
お知らせ

「平成18年電波産業年鑑」を発行

去る10月10日付で「平成18年電波産業年鑑」を発行しました。「電波産業年鑑」は、電波利用の実態を的確に把握できる情報を関係者に提供することによって、電波利用の理解が促進され、社会経済環境の変化に応じた事業計画の立案などに役立てていただくため、当会の「調査統計小委員会」で編集を進めてきたものです。

年鑑は、電波産業に関する情報・データを網羅した五つの章及び資料編からなる本誌と、電波産業調査統計（統計で見る電波産業の推移）の別冊により構成されています。

会員の皆様には、10月13日に発送致しました。活用していただければ幸いです。追加の必要な方には実費で頒布しています。

なお、別冊の電波産業調査統計につきましては、当会ホームページ「情報資料コーナー」に掲載準備中です。

【本誌の構成】

- 第1章 電波産業の構成と動向
- 第2章 国内通信及び放送サービスの動向
- 第3章 電波産業の技術動向
- 第4章 電波産業の海外動向
- 第5章 情報通信行政の動向
- 資料編 ARIBの概要、電波利用の歴史等

別冊 電波産業調査統計～統計で見る電波産業の推移～

- (1) 構成 (2) 無線局数 (3) 事業者数 (4) 市場規模
- (5) 輸出入 (6) 設備投資 (7) 従業員数



ARIBの動き

第63回規格会議が開催される（続報）

第63回規格会議（平成18年9月28日）における策定及び改定の概要（第5～10項）を、前号に引き続き掲載します。

5 デジタル放送に使用する番組配列情報標準規格

(ARIB STD-B10 4.3版)

「第2部付録N（情報）ネットワーク識別の割当状況」において、（1）ネットワークの名称の変更及び（2）ケーブルテレビ放送に関するネットワーク識別の割当状況の追加を行いました。

6 デジタル放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）

(ARIB STD-B21 4.5版)

「6.2.3.3 マルチチャンネル用音声出力インタフェース」において、参照していた旧EIAJ規格「CPX-4141」がIECで規格化されたことに伴い廃止されたため、IEC規格「IEC 61937-6 (2006-01) Digital audio - Interface for non-linear PCM encoded audio bitstreams applying IEC 60958 - Part 6: Non-linear PCM bitstreams according to the MPEG-2 AAC and MPEG-4 AAC audio formats」に変更しました。

また、「6.2.3.4 Bluetooth音声出力」の項を追加し、受信機からイヤホンまでのケーブルなしでテレビ音声を聴くことができるように、Bluetooth機能により音声出力を行う受信機は、Bluetooth SIG規格「Advanced Audio Distribution Profile (A2DP)」に準拠することを追加しました。

7 デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格 (ARIB STD- B32 2.0版)

日本電気(株)及び松下電器産業(株)から工業所有権の実施の権利に関する確認書の提出があったため、「デジタル放送における映像符号化、音声

符号化及び多重化方式 標準規格（ARIB STD-B32 2.0版）」（案）のまえがきの別表にその情報を追加しました。

8 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料

(ARIB TR-B14 2.9版)(案)

今回の技術資料（2.9版）では、放送受信者等の個人情報の保護に関する指針の見直しに基づき、個人情報保護に関するセキュリティ強化を中心に改定を行いました。

データ放送運用規定（第三編：Aプロファイル、Cプロファイル）では、通信コンテンツで個人情報を扱う場合は必ずTLS1.0/SSL3.0を使うように規定したり、個人情報ガイドラインを設けるなどセキュリティを強化しました。双方向通信運用規定（第六編）では、TLS及びSSLエラー時の動作についてセキュリティを強化しました。

個人情報保護に関わる改定以外では、ダウンロード運用規定（第一編）において、簡易ロゴに関する明確化の改定を行いました。受信機機能仕様書（第二編）では、AAC音声のPCEの取り扱いについて明確化しました。送出運用規定（第七編）では、リモコンキー識別T.B.D.を削除したり、ケーブルテレビ事業者の自主放送用の識別を追記するなどの明確化を行いました。

9 BS/広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料

(ARIB TR-B15 3.8版)

BS9チャンネルのデジタル化に伴うチャンネル再編に合わせて、2007年12月から、BSデジタル放送の15チャンネルでは、NHKの3番組の放送、BPA（BSデジタル放送推進協会）のデータ放送（エンジニアリングスロット）及びデータ放送・音声放送の2事業者の放送の信号が多重・合成されて送出される予定です。このチャンネルで降雨減衰対策等のために階層変調を実施する場合、現行の運用規定では4社のPSI（Program Specific Information）をすべて低階層で流す必要があり、その場合、伝送容量が不足します。そのため、高階層サービスのPMT（Program Map Table）を高階層で送出できるように運用規定を変更しました。これに伴い、放送休止等を示すエラーメッセージの運用を変更しました。

また、BS/広帯域CSデジタル放送について、サービスID、ロゴID等の修正を行いました。

10 サーバー型放送技術資料

(ARIB TR-B27 1.0版)

本技術資料は、サーバー型放送を運用するための技術要件をまとめたものです。

サーバー型放送とは、デジタル放送の受信機能、ハードディスク等の蓄積機能、ブロードバンドなどの通信機能を装備したサーバー型放送受信

機に対し、メタデータやアクセス制御機能を用いて、あらたな視聴形態を提供するサービスです。

本技術資料ではARIB STD-B38「サーバー型放送における符号化、伝送及び蓄積制御方式」にまとめられたサーバー型放送の環境を構築するために必要となるメタデータの規格及びサーバー型放送の基本概念をベースとして、放送から各種コンテンツや制御データを提供する方法、放送だけでもしくは放送から始めて通信の機能を活かしコンテンツを多様な形態で利用するための技術要件を、放送／通信事業者の運用や送出信号型式及びサーバー型受信機の形態を想定してまとめました。

CEATEC JAPAN 2006が開催される

去る10月3日（火）から7日（土）まで、CEATEC JAPAN 2006が幕張メッセで開催されました。展示ブースは全体で807社・団体／出展小間数2,936小間となりました。会期中は残念ながら天候に恵まれない日が多かったにもかかわらず、昨年同様多数の来場を頂きありがとうございました。

当会の展示ブースでは、42インチディスプレイのDVD放映によるARIBの活動紹介、ARIBホームページの閲覧、地上デジタルテレビジョン放送のためのアナログ周波数変更対策関連の紹介展示を始めとして、通信・放送分野の主な研究開発状況、電子タグと無線アクセス等のパネルでの紹介、関連資料の配布の他に、アンケート調査を実施しました。

アンケート調査票には過去最高の1800人の方の回答をいただきまして大変有難うございました。アンケート調査の集計結果は後日ARIB機関誌（No.52 平成19年1月発行）に掲載の予定です。



ARIB展示ブースの賑わい

編集後記

10月4日、ARIBの展示説明と見学をかねCEATEC JAPANに行きました。展示ブースはどこも賑わいこの業界の関心の高さがうかがえました。下記

は、2005年度におけるコンシューマ・エレクトロニクス展示会及び放送機器展示会の開催時期・期間と入場者数を調べたものです。

(H.K)

3大コンシューマ・エレクトロニクス展示会

* CEATEC JAPAN (Combined Exhibition of Advanced Technologies) 千葉 幕張

開催日：10月上旬 5日間 入場者数:約20万人

* IFA (Internationale Funkausstellung) ドイツ ベルリン

開催日：9月上旬 6日間 入場者数:約24万5千人

* CES (International Consumer Electronics Show) USA ラスベガス

開催日：1月上旬 4日間 入場者数:約14万人

3大放送機器展示会

* Inter BEE (International Broadcast Equipment Exhibition) 千葉 幕張

開催日：11月中旬 3日間 入場者数:約3万3千人

* NAB(National Association of Broadcasters | Events) USA ラスベガス

開催日：4月上旬 5日間 入場者数:約10万4千人

* IBC (International Broadcasting Convention) オランダ・アムステルダム

開催日：9月中旬 5日間 入場者数:約4万4千人

[ページの先頭に戻る ▲](#)